

逆井孝仁教授の略歴および業績

1925年7月6日生

学 歴

- 1945年 4月 東京帝国大学経済学部商業学科入学
 1948年 3月 東京大学経済学部商業学科卒業
 1948年 4月 東京大学経済学部大学院入学
 1949年 3月 同大学院修了

職 歴

- 1949年 4月 東京大学経済学部助手
 1954年 1月 同志社大学経済学部専任講師
 1956年 4月 同志社大学経済学部助教授
 1958年 9月 立教大学経済学部助教授
 1965年 4月 立教大学経済学部教授
 1969年 9月 立教大学経済学部経済学科長（1971年3月まで）
 1973年 4月 立教大学経済学部長兼大学院経済学研究科委員長（1975年3月まで）
 1973年 4月 立教大学学校・社会教育講座委員，図書館委員，学生相談所顧問，機関誌運営委員を委嘱される（1975年3月まで）
 1975年 7月 立教学院評議員（1991年3月まで）
 1977年 4月 武蔵大学経済学部非常勤講師（日本経済史担当，1978年3月まで）
 1982年 4月 慶応義塾大学経済学部非常勤講師（日本経済思想史担当，1989年3月まで）
 1983年 9月 東京大学経済学部非常勤講師（日本経済思想史担当，1985年3月まで）
 1985年 4月 立教大学大学院経済学研究科博士課程後期課程主任（1987年3月まで）
 1987年 4月 早稲田大学政治経済学部非常勤講師（日本経済思想史担当，現在まで）
 1990年 4月 日本女子大学文学部教育学科非常勤講師（特別講義担当，1991年3月まで）
 1991年 3月 立教大学経済学部を定年により退職
 1991年 4月 立命館大学大学院文学研究科非常勤講師（特殊講義担当，1992年3月まで）

学会および社会における活動

- 所 属 学 会 経済学史学会，歴史学研究会，日本史研究会，社会思想史学会，日本経済思想史研究会，石門心学研究会

役 員 日本経済思想史研究会代表世話人
石門心学研究会評議員・理事

研究業績

著 書

1. 日本経済史論（大石慎三郎，津田秀夫，山本弘文と共著），御茶の水書房，1967年4月。
2. 日本資本主義—展開と論理—（保志恂，関口尚志，石井寛治と共編著），東京大学出版会，1978年2月。
3. 日本経済史（北島万次，野田嶺志，富沢清人と共著），有斐閣，1982年8月。
4. 日本の経済思想四百年（杉原四郎らと共編著）日本経済評論社，1990年6月。

論 文

1. 近世幕領における人口政策の一考察—下総国結城郡恩名村の例について—(1)，(2)（同志社大学『経済学論叢』第5巻第4号，6号，1954年6月，12月）
2. 安藤昌益の封建制批判とその背景，(1)，(2)（同志社大学『経済学論叢』第6巻3号，4号，1955年7月，10月）。
3. 封建制から資本主義への移行—ベスマールトヌイ氏の書評によせて—（同志社大学『経済学論叢』第7巻第4号，1957年3月）。
4. 石田梅岩の思想とその背景(上)，(下)—石門心学成立の歴史的意義について—（立教大学『立教経済学研究』第14巻第1号，3号，1961年6月，12月）。
5. 仁斎学の歴史的性格とその基盤（上），(下)—「古学派」の再検討のために—（立教大学『立教経済学研究』第16巻第4号，第18巻第2号，1963年2月，1964年8月）。
6. 「寄生地主制」研究に関する一考察—その分析方法の再検討について—（立教大学『立教経済学研究』第17巻第3号，1963年11月）。
7. 石門心学の意義と限界—その通俗道德への転落について—（立教大学『立教経済学研究』第18巻第4号，1965年2月）。
8. 心学（大久保利謙，海老沢有道編『日本史学入門』，広文社，1965年4月）。
9. 時代区分論〈日本史〉（入交好脩，井上幸治編『経済史学入門』，広文社，1966年6月）。
10. 経済思想（入交好脩，井上幸治編『経済史学入門』，広文社，1966年6月）。
11. 石田梅岩における通俗道德の成立——「通俗道德論」の再検討によせて——（前掲『日本資本主義—展開と論理—』所収，1978年2月）。
12. 経済の発展と経済思想（大石慎三郎編『日本史』(5)，近世2，有斐閣，1978年9月）。
13. 「通俗道德」の思想構造—「心」の哲学成立の思想的意義—（立教大学『立教経済学研究』第32巻第3号，1978年12月，のちに古田紹欽，今井淳編『石田梅岩の思想—「心」と

- 「儉約」の哲学一』ペリカン社, 1979年12月, に転載)。
14. 石門心学における実践倫理の転回—梅岩から堵庵へ— (立教大学『立教経済学研究』第34巻第3号, 1980年12月)。
 15. 心学 (『朝日ジャーナル』, 1984年6月)。
 16. 明治以前の経済思想—近世経済思想史研究の問題点— (経済学史学会編『日本の経済学—日本人の経済的思惟の軌跡—』, 東洋経済新報社, 1984年11月)。
 17. 「仁政」から「民富」へ—経済思想の転回— (週刊朝日百科『日本の歴史』91号, 朝日新聞社, 1988年1月)。
 18. 河上肇における日本経済思想史研究 (立教大学『立教経済学研究』第44巻4号, 1991年3月)。
 19. 江戸時代の経済学 (『歴史読本特別増刊—江戸時代「生活・文化」総覧—』, 新人物往来社, 1991年3月)。
 20. 石田梅岩—経済学者としての才覚— (『文』第25号, 知性社, 1991年10月)。

書評・紹介

1. E・ハーバート・ノーマン著『忘れられた思想家—安藤昌益のこと—』 (東京大学『経済学論集』第19巻第5号, 1950年5月)。
2. 三つの日本資本主義発達史—土屋喬雄『日本資本主義発達史』, 梶西光速, 加藤俊彦, 大島清, 大内力著『日本資本主義の成立』, 梶西光速著『日本資本主義発達史』— (『図書新聞』, 第286号, 1955年3月)。
3. 梶西光速, 加藤俊彦, 大島清, 大内力著『日本資本主義の成立』 (同志社大学『経済学論叢』第6巻第2号, 1955年3月)。
4. 羽鳥卓也著『近世日本社会史研究』 (史学会『史学雑誌』第64巻第7号, 1955年7月)。
5. 林基編『日本人物史大系』第4巻, 近世Ⅱ (歴史科学者協議会『歴史評論』, 第117号, 1960年5月)。
6. 近世史研究解説 (旧版岩波講座『日本歴史』第13巻, 近世5, 岩波書店, 1964年2月)。
7. 同志社大学人文研究所編『熊本バンドの研究』 (『エコノミスト』, 1965年11月)。
8. 奈良本辰也編『近世日本思想史研究』 (日本史研究会『日本史研究』第82号, 1966年1月)。
9. 長幸男, 住谷一彦編『近代日本経済思想史』Ⅰ (『エコノミスト』, 1970年3月)。
10. 竹中靖一著『日本的経営の源流』 (石門心学会『こころ』第21巻第3号, 1977年11月)。

小文, その他

1. 佐賀藩 (『世界歴史辞典』第8巻, 平凡社, 1952年3月)。

2. 工業の発展—藩専売制, 藩営マニファクチュア, 藩専売制の結果— (『世界歴史辞典』第22巻, 史料篇, 日本, 平凡社, 1955年3月)。
3. 経済学概論の目的とエッセンス (『経済セミナー』第61号, 1961年9月号)。
4. 海保青綾, 経済放言, 経世秘策, 正司考旗など (『日本歴史大辞典』, 河出書房, 1966年)。
5. 私のひとこと—日本経済史— (『祖国と学問のために』第72号, 1968年11月25日)。
6. 社会思想の歩み—荻生徂徠「弁道」「弁名」— (『学生新聞』第62号, 1975年9月24日)。
7. 産語 (『国史大辞典』第9巻, 吉川弘文館, 1985年9月)。